

# 豊聴『かがやき』ビジョン

## インクルーシブ教育システム構築

- 1 共生社会の形成に向けて
- 2 就学相談・就学先決定の在り方について
- 3 障害のある子どもが十分に教育を受けられるための 合理的配慮及び基礎となる環境整備
- 4 多様な学びの場の整備と学校間連携
- 5 特別支援教育を充実させるための教職員の専門性向上等

## 新学習指導要領

- 1 初等中等教育全体の改善・充実の方向性を重視  
①社会に開かれた教育課程の実現、②育成を目指す資質・能力、  
③主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導改善、  
④各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立
- 2 障害のある子供たちの学びの場の柔軟な選択を踏まえ、幼稚園、小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視
- 3 障害の重度・重複化、多様化への対応と卒業後の自立と社会参加に向けた充実

## 兵庫県特別支援教育第二次推進計画

- 1 一人一人の多様な教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実
- 2 すべての教職員の特別支援教育に関する専門性の向上
- 3 早期から支えつなぐ相談・支援体制づくり
- 4 特別支援教育を充実させるための教育環境整備の推進

## 校訓

「希望」「努力」「自立」

## 教育目標

「自分らしく成長し、協働しながら学び、生活の質を向上する」

幼児児童生徒が、希望や目標を持ち、その達成に向けて、人間関係を形成し、支援環境を整えながら努力を続けることで、内面の成長を遂げ、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、学校・家庭・地域生活の自立、将来の社会生活の自立及び社会参加するために必要な意欲・態度・能力を育む。

## 教育方針

1 幼児児童生徒一人一人の特性や実態を把握して、個別の指導計画を作成し、情報保障や聴覚活用、音環境への配慮等適切な指導方法や指導体制の工夫改善を行う。

2 幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて、関係機関等との連携を図りながら個別の教育支援計画を作成し、必要な支援を行う。合理的配慮については、保護者と十分に合意形成を図る。

3 幼児児童生徒一人一人の主体性を伸ばし、手話等のコミュニケーションや協働的な関わり等による対話的な学びで「わかる」「できた」「楽しい」を実感することで学びを深める。

4 幼児児童生徒一人一人の発達段階や特性に応じたキャリア発達を支援するキャリア教育の充実を図ることにより、内面の成長を促し、生活や働く意欲・態度・能力を培う。

5 本校の特色である寄宿舎を活用し、学校の学習を支える生活の場と位置づけて、個別に応じたきめ細かな指導や支援を継続的にを行い、生活自立・社会自立を確立する実践的な力を培う。

## 学校経営の重点項目

『伝統の積み上げと新しい風の融合』～不易流行～

- I 「社会に開かれた教育課程」の編成及び幼稚園から中学部まで系統的・継続的なキャリア教育の視点を取り入れた授業計画を作成する等のカリキュラムマネジメントを進める。
- II 研修テーマや教育課題に基づいて、教職員の特別支援教育の専門性を高め、学び合い高め合う学習文化を培い、主体的・対話的・深い学びの視点を取り入れた授業改善を進める。
- III 居住地校との交流及び共同学習の充実に向けた調査研究を推進し、地域との関係を深め、社会で自立できる力を育むとともに、学校間交流校等において障害についての理解を深め、心のバリアフリーを育み、相互理解を深める機会とする。
- IV 地域の特別支援教育のセンター的機能及び「但馬地区特別支援学校ネットワーク会議」の一層の充実を図る。
- V 各学部、寄宿舎との連携や活性化された組織運営により、教職員の協働体制を築き、「チーム豊聴」として、教育目標の達成や教育課題に取り組む。
- VI 教職員の勤務時間の適正化を図り、子どもに向き合える環境づくりに努めるとともに、相互支援による同僚性を高める等風通しのよい職場づくりに努める。
- VII 家庭・地域・関係機関との積極的な連携や情報共有を図りながら、協働関係を構築し、開かれた・信頼される学校づくりを推進する。
- VIII 学校評議員等と連携した学校評価等を通じたP(計画)－D(実行)－C(評価)－A(改善)サイクルマネジメントにより学校改善を進める。

共有・共感から協働、そして共育へ

